

延べ宿泊者数は前年同月比プラス 住宅着工は7カ月連続で前年同月比マイナス

9月の延べ宿泊者数は、前年同月比+3.9%の673,220人となり、2カ月ぶりに増加した。特に外国人が堅調で、前年同月比+43.4%の138,280人だった。

10月の新設住宅着工戸数は、前年同月比▲25.1%の754戸となり7カ月連続でマイナスとなった。全国の着工戸数は、7カ月ぶりにプラスに転じた。

各指数の矢印については
現状の景況感をあらわす。



上向き



横ばい



下向き

鉱工業生産指数



2カ月連続で前月比低下(9月)

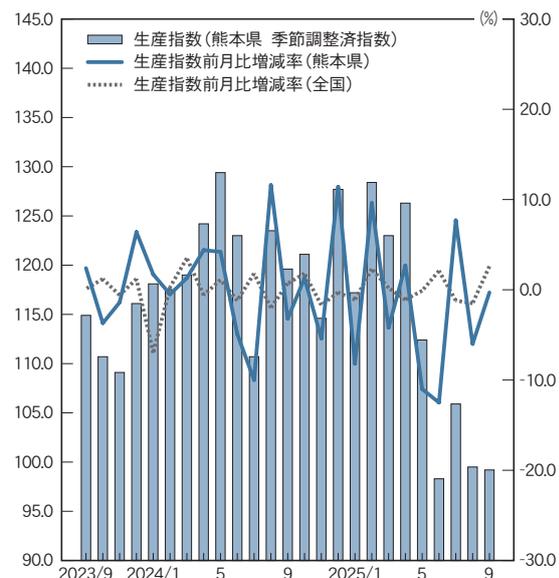
9月の鉱工業生産指数(季節調整済)は、速報値で前月比▲0.3%の99.2となり、2カ月連続で前月から低下した。

生産指数(季節調整済)を業種別にみると、化学工業(前月比▲36.9%)、電子部品・デバイス工業(同▲11.0%)、食料品・たばこ工業(同▲1.4%)など6業種が低下した。一方、汎用・生産用機械工業(同+47.6%)、金属製品工業(同+18.8%)など10業種が上昇した。

業種別寄与度を見ると、化学工業が▲6.50ポイント、電子部品・デバイス工業が▲0.60ポイントとなり、全体の生産指数を押し下げた。

出荷指数(季節調整済)は前月比+1.3%の102.0となり、2カ月ぶりの上昇。在庫指数(同)は同+1.9%の79.6となり4カ月ぶりに上昇した。

鉱工業生産指数前月比 (2020年=100 季節調整済)



※最新月は速報値
資料：熊本県統計調査課、経済産業省

住宅着工



着工戸数は7カ月連続で前年比マイナス(10月)

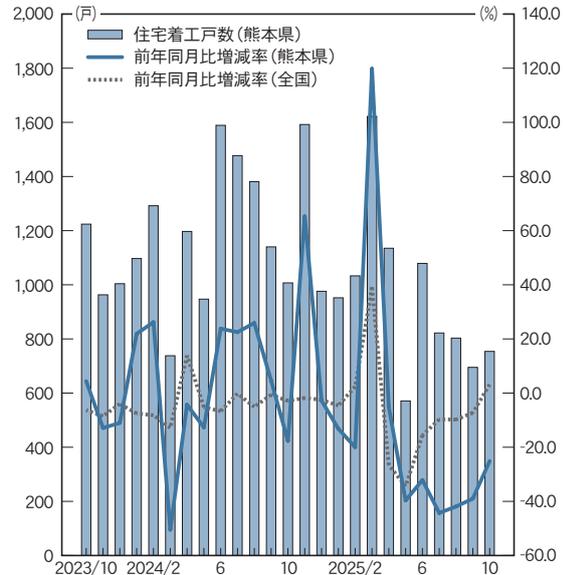
10月の新設住宅着工戸数は、前年同月比▲25.1%の754戸となった。

利用関係別にみると、持家が283戸（前年同月比▲23.3%）、貸家は347戸（同▲18.2%）、分譲は124戸（同▲41.8%）であった。

この背景には、省エネ基準の適合義務化や、一定の条件を満たす場合に建築確認申請を省略できる4号特例の縮小による駆け込み需要で急増した3月からの反動減が続いていると見られる。さらに、建築資材価格の高止まり、建設業界の深刻な人手不足、金利上昇など様々な要因が重なり、着工戸数の減少につながっている。

全国の10月の新設住宅着工戸数は、71,871戸（同+3.2%）と7カ月ぶりに前年比プラスに転じた。しかしながら、持家は18,081戸（同▲8.2%）と減少傾向が続いている。

新設住宅着工戸数前年同月比



資料：国土交通省

公共工事



請負金額は前年比横ばい(11月)

11月の公共工事請負金額は172億10百万円で前年同月比±0.0%となった。

公共工事請負金額前年同月比

以降は会員専用ページにて公開しております。

請負金額を発注者別にみると、国は19億66百万円（同▲4.0%）、熊本県は10億97百万円（同+25.1%）、熊本市は20億9百万円（同▲4.0%）、熊本市は20億9百万円（同▲4.0%）となっている。

地区別では県内11地区のうち、上 [ご入会はこちらから](#)

(入力は数分で終わります)

[会員の方ははこちらから](#)